

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	3070103373
法人名	有限会社ライフパートナー
事業所名	すずらん内原
訪問調査日	平成20年 8月 5日
評価確定日	平成20年 9月 29日
評価機関名	特定非営利活動法人 認知症サポートわかやま

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3070103373		
法人名	有限会社ライフパートナー		
事業所名	グループホームすずらん内原		
所在地	和歌山市内原634-1 (電 話) 073-447-2940		
評価機関名	特定非営利活動法人 認知症サポートわかやま		
所在地	和歌山市四番丁52ハラダビル2F		
訪問調査日	平成20年 8月 5日	評価確定日	平成20年 9月29日

【情報提供票より】(平成20年7月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年 11月 01日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	12 人	常勤 11人, 非常勤 4人, 常勤換算	12人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨平屋造り		
	1 階建ての	1階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000円		その他の経費(月額)	15,000円	
敷金	無				
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円	
	夕食	円	おやつ	円	
	または1日当たり		1,000円		

(4) 利用者の概要(平成20年7月20日現在)

利用者人数	18 名	男性	0 名	女性	18 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名		
要介護3	6 名	要介護4	1 名		
要介護5	4 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低 74 歳	最高 104 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	たばた内科
---------	-------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

田園地帯にあるグループホームである。2ユニットのホームでデイサービスも併設されている。2つのホームは渡り廊下を通して入居者が自由に行き来できるため、自分のホームだけで生活することなく、隣のホームで時間を過ごす入居者もいる。ホームの周囲には畑があり、入居者が野菜の栽培を楽しんでいる。職員は明るく、入居者とともに過ごす時間を楽しんでいる。更に、職員は利用者と一緒に外出する機会を多くしたいという前向きな気持ちを持ってケアに取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回改善提案された運営推進会議については自治会等に働きかけて会議を開催することができた。地域住民がホームに関心を持っているが関わり方が分からないという意見を汲み取り、その後、地域住民との関わるの機会を増やすこともできている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目	自己評価は各ユニット毎に管理者と職員が協力して行っている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議はまだ1度しか開催されていない。地域住民がホームに関心があり、関わりを持ちたいと感じていることが確認できたので、グループホームについての知識を持ってもらい地域と交流できるよう討議し、その後地域との交流が深まっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族には毎月手紙で入居者の状態を伝え、訪問時にはじっくりと話し合える時間を持っている。3ヶ月に1回開催される家族会では家族が日頃感じていることを遠慮なく言えるように配慮し、出された意見はミーティングで話し合い実施可能な内容は取り入れている。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	近くの神社で行われる「七夕祭り」には、利用者の希望から、笹飾りを持って祈禱をうけるなどしている。ホームのそばで農業を営む住民からの協力で、畑の一部をホームで使用させてもらうなど、交流を深めている。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「その人の役割を見つけ、その人らしく安心した生活が送れるよう、家族と共に支えていく」というホーム独自の理念を作り上げているが、地域密着型の基本である「地域との交流」が理念として盛り込まれていない。	○	地域密着型サービスの役割である「地域との交流」という内容もホームの理念として盛り込むことが望ましい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの理念は各ユニットの共有スペースの見やすい所に掲げられている。管理者と職員は月に1回開催されるカンファレンスの際に、理念を確認し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	入居者からの要望により、近くの神社で毎年行われる「七夕祭り」には、入居者とともに笹飾りを持ち込みご祈禱を受けている。昨年秋には地域の小学校の運動会に入居者と共に参加することも企画したが、雨天のため実施できなかった。		
3. 理念を实践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は自己評価や外部評価の意義を理解している。評価を活かし、近隣住民と話し合い、地域との交流を深めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	初めて開催した運営推進会議では、地域住民がグループホームに関心を持っていることを知り、自治会とも交流が深まった。野菜の栽培や収穫を楽しみにしている入居者のために、ホームのそばの畑を入居者のために開放してもらうことができた。また、家族も協力的であることがわかった。	○	設立以来初めての運営推進会議によって取り組みも広がったことから、今後も運営推進会議に期待されることは大きい。今後は2か月に一度開催できるように期待する。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に市町村担当者の出席は無い。紙おむつの申請など介護保険以外の施策については、種類や用途、申請方法などを市の担当者が家族に指導する機会を設けている。	○	地域包括支援センターや高齢福祉に関わる市職員との連携を深め、地域住民に認知症や地域密着型サービスについての知識を広める機会を持つことを期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の家族には毎月1回手書きの手紙を送付し、状態を伝えている。家族が訪問することも多く、その時にじっくりと話す機会を持つようにしている。状態の急変時には電話連絡を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が訪問した場合だけでなく、3ヶ月に1度開催の家族会でも意見を聞いている。家族会では、職員と家族と一緒にお茶を飲みながら意見交換をし、単なる報告会にならないように気を付け、出された意見を運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は職員に悩みがあれば、遠慮せず相談できる機会を設けている。過去に離職は4回あったが、特に問題は起こっていない。新しい職員には、入居者がホームのことを教えることが多く、喜びにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、各職員のレベルに合った研修を紹介し、職員からの要望もできるだけ考慮して研修の機会を与えている。研修を受けた職員は職場で伝達研修を行い、日々のケアの中での疑問は、その都度提案し話し合いをしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームとは2日間程度の交換研修を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族からの希望でサービス利用に至ることが多く、十分な時間を取って馴染みの関係を作るのが難しいが、最低でも1回は見学に来てもらい、入居者の不安を解消するよう配慮している。入居者は職員の言葉の響きを敏感に感じ取るので、不安を与えないよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、入居者を人生の先輩として尊敬している。四季折々の行事・しきたりや漬け物、おはぎや餠づくりなどの料理の方法、野菜の栽培方法などは職員が入居者から教えてもらっている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の意向については、家族会で話し合っているが、家族からの意見があまり出ない。入居者の生活歴などを参考にしながら、日常の声かけを通して、できるだけ入居者の思いをつかむ努力をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回のカンファレンスや3ヶ月に1回の家族会で、職員や家族が話し合い、入居者にとって一番ふさわしいと思われる介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月に1回は目標の設定など計画全体の見直しを行い介護計画を作成している。期間内の変化については、その都度本人や家族と話し合い、計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望に応じて柔軟な支援は行っているが、事業所独自の多機能性を生かした支援は特に行われていない。	○	今後運営推進会議で出された意見なども活用しながら、本人や家族、地域に即し、認知症ケアの拠点としての独自の取り組みを期待したい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームには協力医療機関はあるが、それを強要することなく本人や家族の希望を大切にしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の過ごし方については、家族からの希望はあるが本人との話し合いは十分にできていない。ホームとしては利用者が希望すれば終末期を受け入れる方針をとっている。入院した場合でも、自宅よりもホームに帰ることを希望する利用が多い。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者が「ちゃん付け」で呼ばれることを希望する場合もあるが、原則として名前は必ず「さん付け」で呼び、入居者が人生の先輩であるという意識を忘れないように気を付けている。個人の記録ファイルは必ず鍵のかかる場所に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとしての基本的な一日の流れはあるが、それに縛られることなく、利用者の意思を尊重している。食事のメニューを一緒に考えることもある。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と職員と一緒に楽しみながら食事作りをし、配膳や後片づけも入居者が自発的に行っている。食事のメニューも、毎回ではないが、利用者と一緒に考えている。		
23	57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間は特に決めていないが、午後からの入浴を希望する入居者が多い。入浴中は入居者が日頃思っていることや感じていることなどをよく話してくれる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者と職員と一緒に掃除をしている。食事の準備や後片づけ、洗濯物をたたむなどの作業も利用者は楽しみにしており、雑巾なども縫ってもらっている。野菜作りが楽しみの入居者には近くの畑でできるよう支援している。		
25	61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望により、野菜の栽培のための苗を購入したり、調理に必要な食材を利用者と共買い出しに行く。ホームの外での食事を楽しみにしている利用者とは回転寿司などの外食に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や玄関には鍵は掛けられていないため、自由に外出ができる。ホームの周囲を散歩したり、そばの畑に出かける入居者もいる。一人で外出する入居者には、職員がさりげなく声かけをしたり、同行して危険がないよう気を付けている。		
27	71	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は消防署の指導の下、昼間と夜間の避難訓練を1年に1回ずつ行っているが、ホーム単独での訓練でありホームの近隣住民と一緒にいう避難訓練はまだ実施されていない。水や食料品などの備蓄はされていない。	○	ホームと近隣住民が合同で行う避難訓練の実施が望まれる。また、緊急時に備えて、自己防衛のためにも水等の備蓄も確保することが望ましい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量は一定量のコップや湯飲みを用い、摂取量を記録している。通常は一日5回、水分摂取の機会を設けている。食事量も毎回摂取した量を記録し、全職員が把握しながら支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	洗面所や居間には季節の花を飾り、季節感を取り入れている。玄関のそばには朝顔など季節の花も栽培している。居間の壁には、職員が入居者と一緒に作った季節感あふれる作品が掲げられている。外出をした時の写真も掲示しており、それを見ながら話すことも多い。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は入居者が不安を抱くことがないように、ベッドや鏡台など今まで使い慣れた物が持ち込まれている。畳の部屋を希望する入居者には個別に配慮している。各居室には氏名が書かれた表札が掲げてあり、他に目立った飾りはないが間違えことなく自分の部屋に入っている。		